

午後Ⅱ試験

問1

問1では、企業の合併に伴う複数のWebサイトの統合を題材に、リスク分析と、Webアプリケーションプログラムにおけるセキュアプログラミングについて出題した。全体として、正答率は平均的であった。

設問1aは、正答率が低かった。サイトPを運用するために、Web-PからLDAP-Pへの通信が必要だという点を考慮できていない解答が多かった。ファイアウォールの設定は、セキュリティ確保の基本なので、細心の注意を払う必要があることに留意してほしい。

設問2と設問4では、リスク分析について出題した。設問2は正答率がやや低く、設問4は正答率が平均的であった。消費者向けのWebサイトでは、個人情報を取り扱うことが多いので、個人情報保護に関する法規制について、よく理解してほしい。

設問3と設問5では、Javaを題材として、Webアプリケーションプログラムにおけるセキュアプログラミングについて出題した。いずれも正答率が高かった。情報処理安全確保支援士の重要な業務の一つに、セキュリティの観点でのソースコードレビューが挙げられる。ソースコードレビューは、開発チーム全体の技術レベルを向上させる効果的な方法なので、ぜひとも今後の業務に生かしてほしい。

問2

問2では、働き方改革のためのマルチクラウドを活用したテレワーク環境の構築を題材に、クラウドサービス利用時のリスク評価について出題した。

設問1(1)は、正答率が低かった。知識として知らなくとも、ワンタイムパスワード生成に求められる要件から、QRコードには第三者に推測されない秘密情報が含まれている必要があると考えられれば解答できる問題であった。

設問1(3)は、正答率が高かった。発行された秘密情報（トークンや認可コード）をどのタイミングで検証すれば認証の安全性が担保されるかがよく理解されていた。

設問3(2)は、正答率がやや低かった。ノートPCからアクセスするクラウドサービスと、仮想デスクトップからアクセスするクラウドサービスを混同した解答が散見された。

設問6(2)は、正答率がやや高かった。利用者に秘密情報を設定させるリスクがよく理解されていた。しかし、本問中ではPINコードとパスワードが明確に区別されていたのにもかかわらず、PINコードとパスワードを取り違えた誤った解答も散見された。